

経営比較分析表（平成29年度決算）

山形県 天童市

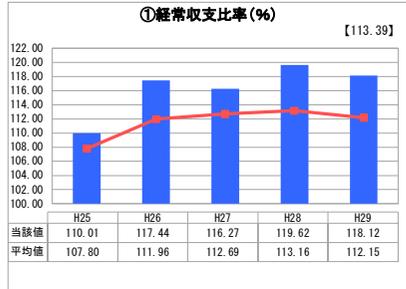
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金 (円)	
-	80.56	99.56	3,996	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
61,998	113.01	548.61
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
61,577	106.54	577.97

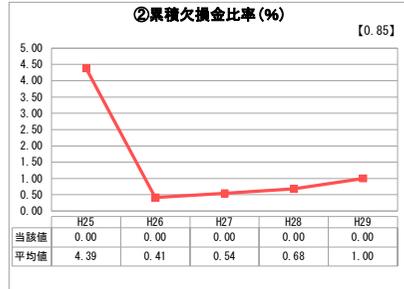
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成29年度全国平均

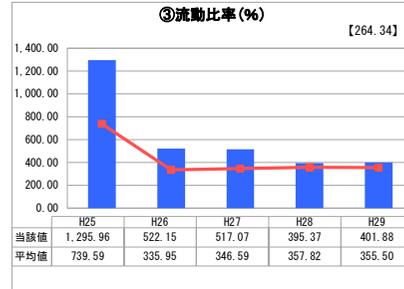
1. 経営の健全性・効率性



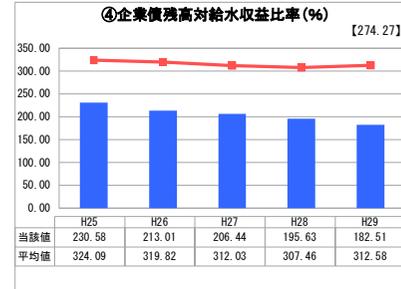
「経常損益」



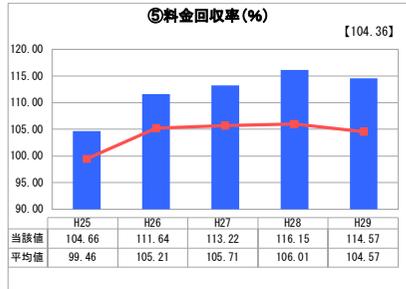
「累積欠損」



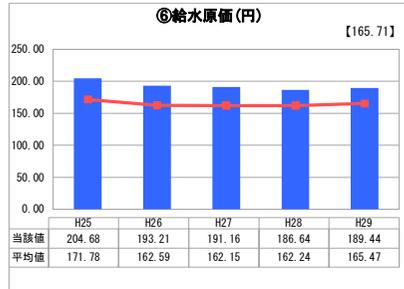
「支払能力」



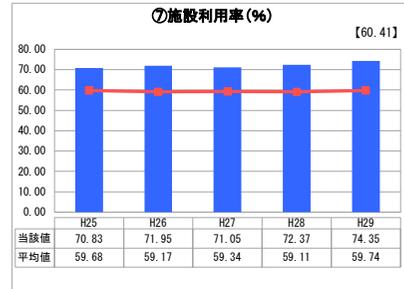
「債務残高」



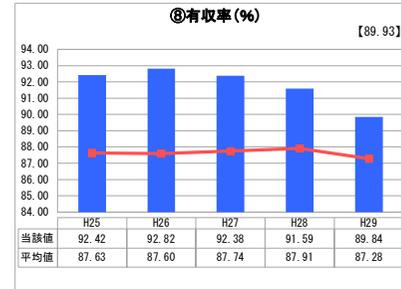
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市水道事業では、経常収支比率(①)及び料金回収率(⑤)が100%を超えており、給水にかかる費用が給水収益によって適切に賄われている状況にある。類似団体と比較しても高い数値となっているが、今年度は施設修繕等により経常費用が増加したため、前年度からは減少した。今後も健全な経営を行うために費用削減を続け、適切な更新投資に充てる財源の確保を行う。

短期債務に対する支払能力を表す流動比率(③)は、今年度も100%を上回っている。企業債償還などの流動負債の増加を見越して、今後も流動資産の増加傾向を維持して支払能力を高める経営を行っていく必要がある。

企業債残高対給水収益比率(④)は、給水収益の維持と企業債の計画的な償還により類似団体より低い値を維持している。今後も現在の水準を保ちながらの投資を目指していく。

給水原価(⑥)は類似団体より高い値となっている。本市の経年比較でみると少しずつ減少していったが、今年度は施設修繕等により費用が増加し前年度より数値が増加している。

施設利用率(⑦)や有収率(⑧)は類似団体より高い値を維持し続けている。しかし、今年度は冬期間に漏水等が発生したことにより有収率が低下してしまった。今後も高い水準を維持するために、適切な更新と漏水調査業務等により、予防的に管路の維持を実施していかなければならない。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率(①)は、償却資産における減価償却の割合を示すもので、毎年度上昇し続けている。当年度は41.25%であり、前年度と比較すると0.92ポイント増加した。老朽化の度合いは類似団体より低いが、上昇傾向にあるため、今後老朽管や施設の更新を計画的に行っていかなければならない。

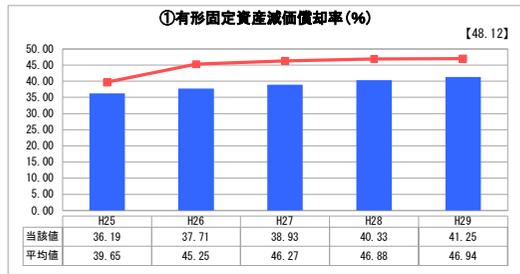
法定耐用年数を超えた管路延長の割合を示す管路経年化率(②)についても、類似団体より低いが、年々上昇している。

当年度に更新した管路延長の割合を示す管路更新率(③)は、前年度より増加したものの、類似団体よりも低い値となっている。平均して1%の更新率となるよう、更新計画に基づいた更新投資を行っていく。

全体総括

経常収支比率、料金回収率、流動比率等が比較的高いことから、現状は給水収益を主とした適切な経営状況である。しかし、今後給水収益の増加を見込むことができない状況で管路の更新投資と適切な維持管理を実施する必要があるため、更なる経費の削減等を行い、高い有収率を維持しつつ持続的な経営を行う。

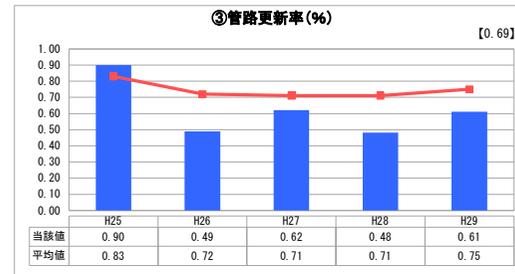
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。